

会議録

会議の名称	令和８年度第２回新城市市民自治会議
開催日時	令和８年７月１７日（金）午後６時３０分から
開催場所	新城市役所３階災害対策本部室
会議の次第	１ あいさつ ２ 自己紹介 ３ 議題 市民まちづくり集会について ４ その他
欠席委員	楠委員・森田委員・加藤委員

1 あいさつ

会長からあいさつがされた。

2 自己紹介

今回から出席する委員から自己紹介がされた。

3 議題

市民まちづくり集会について

《事務局説明事項概要》

- ・ 市民まちづくり集会について、現状維持・制度変更・制度廃止の3つの選択肢がある。
- ・ 前回出た意見は次のとおりである。参加者は若い世代・子育て世代が非常に少なく、また、同じ顔ぶれが多くて新規の参加が少ない。集会自体は情報共有と意見交換の中でそれぞれが気付きを得て地域での活動につなげていくという制度であるが、集会のグループワークの中では盛り上がるが家に帰って個々になったときに次につながっていかず、また、その確認もできていない。制度的に次につなげていく担保はない。現在の実行委員会は、若い世代で構成されており、委員の挑戦の場になっている。
- ・ 話のきっかけとして、市民まちづくり集会の事務局側として課題と感じていることを説明する。
- ・ 課題と感じていることは、目的と手段の逆転・テーマ選定・参加者・開催の成果の4点で、前半の3つは関連性がある。
- ・ 1つ目は、目的と手段の逆転である。本来は、このテーマについて情報共有・意見交換をしたいという目的があってその手段として市民まちづくり集会が位置付けられる。しかし、実際には、年に1回開催しないといけないから今年度のテーマをどうしようという流れになっている。開催自体が目的であり手段として目的・テーマ選定を行う。
- ・ 2つ目は、テーマ選定である。庁舎建設のような市全体で関心の高い政治課題が毎年あるわけではないため、テーマ選定には苦慮している。参加者アンケートや市の内部照会の結果を受けて実行委員会の中で選定をしており、新規の参加者にも来てもらえるテーマ選定を目指しているが、難しい課題である。
- ・ 3つ目は、参加者である。若い世代や子育て世代の参加はなく、複数回目の参加の方が多くおり、新規の参加は少ない。また、全体の参加者も多くはない。庁舎建設がテーマの際には、参加者が非常に多かったことから、関心の高さが参加者数につながっている。
- ・ この3つは関連性があり、庁舎建設のような関心の高い政治課題があるのが鍵になっている。

- ・ 4つ目は、開催の成果であるが、これは開催方法の話であるため実行委員会で検討をするべきものではある。グループワークで検討した内容は、その中にいたメンバーにしか本当の意味が分からない。最後にグループごとに発表を行うが、発表者の説明能力・時間の制約があり、全ての意図が全体に共有できるものではない。また、模造紙に残っている断片だけでは伝わらないことは多くある。どの方法にも長所短所があるが、現行の方法の短所として課題である。

《質疑応答・意見交換》

会長	ありがとうございました。 まずは論点整理をして議論していければと思います。その後、続けるべきなのかやめるべきなのか、毎年の開催を維持するのか等について検討できればと思います。 いかがでしょうか。
委員	若い世代・子育て世代の参加が少ないということを非常に残念に思います。次世代を考えるとそこが一番大切です。自分の周りには伝えていきたいです。 テーマについては、派手なものにするのが良いと思います。また、グループワークは一人ひとりの意見が出て良いです。面白いテーマがあればそれをグループで考えていくことで、家に帰ってから活動的になると思います。特に若い世代には深い話をする時間が必要だと思います。
委員	ワークショップ形式は、参加者には喜ばれます。行政からは、テーマの担当と市民自治推進課の担当と個別で参加する職員がいます。本音が出るかは分かりませんが、行政の本音と議会の本音と市民の本音が出せる機会は中々ないので、面白い制度です。市民まちづくり集会はここに意味があると思います。 これをどうやってマンネリ化させないのかが課題かと思います。 テーマにより参加者数に差が出ます。今後それをどうしていくかを議論していく必要があると感じています。先程の意見のように若い世代をどうやって取り込んでいくかということも課題と感じました。
委員	事務局の思っている課題のほかに個人的に思っている課題があります。目的としては市民・行政・議会が話し合うということですが、参加している行政の方は本音で語れないと思います。参加している方は上の方が多くるので、その発言が市の意見として扱われることを懸念しているのかと思いますが、本音は出てこないです。仕方がないですが、条例の目的は理想論に過ぎないと思います。

委員	開催の回数は、年に1回でも、2年に1回でも、3年に1回でも良いと思います。全ての世代を対象にした集会をいつまでも続けるのか、このまま10年が経過すると地域活動ができる人が3割、4割、地区によっては半分以上減る可能性もあります。自治体として存続していくことを考えたときには、若い世代が地元に残る選択をするための通勤時間、企業誘致、産業、就業等についての意見交換ができる場所があると良いと思います。 先程の意見のとおり、行政の方は、行政としての回答と扱われてはいけないうと気を付けた差し障りのない発言になりますので、参加者からすると煮え切らない、もやもやしたところがあるのかもしれない。 毎年、全世代を対象としたものを企画する必要はなくて、年代を絞って取り組んでも良いと思います。これからの新城を考えていくのであれば、70代・80代ではなく現役世代にポイントを置いた方が良いでしょう。
委員	あった方が良いのか、ない方が良いのかという議論はあまり良くないと思いますが、そうするとあった方が良いに決まっています。話し合う機会、知恵を出しあう機会、知る機会はず中々ないです。工夫で解決できる場所もありますが、工夫では解決できないものもあります。子育て世代に参加してほしいと思っても中々苦しいと思います。スポットを当てることは大切なことだと思いますが、実行委員さんの御苦労もあるでしょうし、私たちが口を出せない部分もあると思います。続けていくこと、企画していただくことはほかに代えがたいものだと感じています。 目的は、本人に設定してもらうことが良いと思っていて、話し合いの中で思ったような言葉が出てこなくても、まちづくりの役に立つヒントを感じてもらえるような目的が発信出来たら良いと考えます。違う世代の人の意見を聞くことは大切だと思いますので、画期的で長く続いている良い集会だと感じています。
委員	第12回のこども園の回に参加しました。前回も言いましたが、周知が開催日の1月前では、子どもの預け先も決まっていなくて、このときは託児がありましたので行きました。開催が土日祝日で、平日だけでなく土日まで園に預けて、参加することに意義があるとは思いますが、親と離れて預けられて子どもは楽しいのかなと思います。子育て世代が参加するのは、子どもが楽しいことがあれば良いですが、土日まで預けてという方は中々いないかなと思います。 子育て世代に参加させたいのであれば、子どもが楽しめるものがセ

	ットでないと難しいです。 テーマについては、ターゲットを絞ることが必要だと思います。参加者の多い回は、女性やこども園の関係者にターゲットが絞られた回です。抽象的なテーマの回は、初めての方は参加しづらいことになると思いますので、絞った方が良いのではないのでしょうか。
会長	今年のテーマは決まりましたか。
事務局	今年度は、初めての議会との共催で、議員定数をベースとする方向で進んでいます。
会長	開催はいつですか。
事務局	開催方法や会場が決まっていませんので、日時もまだ決まっていません。
委員	実行委員として4回参加していますが、テーマ設定は毎回どうしようという時間が多くて、若い世代に交代してきたからの課題かもしれませんが、知識不足から課題に当たっている感じがします。若ければ良い、若いメンバーですごいと思っていましたが、テーマをどうしよう、若い世代を取り込むにはどうしよう、と迷子になっている感覚で進めています。 参加者の面では、若い世代を取り込むのは正直とても難しいです。こども園のときも肌感としては子育て世代が参加した感じはなくて、もちろん去年、一昨年よりは多いと思いますが。そうすると若い世代をどう増やすかというよりも、将来的な継続性としては良くないのかもしれませんが、今参加してくれている上の世代が続けて参加してくれるのか、そこから輪を広げていくにはどうしたら良いのかということが必要かと思います。 関心の高さで参加者数がばらつくのは仕方がないと思いますが、一度参加した人を離さない強みが作れたら持続可能なものになるのではと感じています。
委員	公共施設は2回目の開催でしたが、1回目のときにもどうやって周知するかということは課題として挙がっていました。実行委員になった方は、今も昔もどんな人に参加してもらおうかということが悩みだと思います。 庁舎建設のテーマの際には多くの人が参加したということを考えると、毎年、実行委員が悩んで、誰をターゲットにしたら良いのかと悩む中で実施するようであれば、本当に必要なときにだけ開催することは1つの案だと思います。そうすると市の一番の問題が分かります。毎年開催していると何となくになってしまいますので、ポイントが決ま

	ってきません。実行委員として4回参加しましたが、それ以降は、グループワークが嫌いなため参加していません。グループワークで話したとしてもそこから何かが始まることはまずありません。帰ってから自分が第一歩を踏み出すことは難しいです。 まちづくり集会の際に、扉は3回開けないと目的地には行けないということを実行委員として話しました。まちづくり集会が1回目の扉で、そこから2回扉を開けないとやりたいことにたどり着いていきません。そこまでの力は、住んでいるだけであれば問題がない現状からは中々生まれてきません。 まちづくり集会をインパクトがあるものにしていくのであれば、毎年の開催ではなく、機運を順番に高めていって開催をするようなものにしていくのもありだと思います。例えば、女性議会終了後の取組として意見交換会のようなものを開催するよう動いているようですが、その会で出た意見を議会に提出して市民まちづくり集会の開催が必要だとなったら開催するようなイメージです。 毎年皆で話しておしまいではなくて、機運を高めていった先で開催することにより意味があるものになると思います。 実行委員は、月に1回か2回の会議に参加し、委員長は事務局と会議前に進行を相談し、すごく時間を掛けていますが、開催当日は思ったよりも人が少なく同じメンバーで、声を掛けた人もそこには中々出ては来ませんし、先程の子育て世代は子どもとの買い物や遊園地に時間を掛けるとしますので、自分たちの生活に大きな影響のある、危機感のある案件でない限り参加をしないと思います。住んでいるだけであれば問題がないからです。 市民まちづくり集会も女性議会もずっとただのパフォーマンスと言われていました。開催はしますが、自分も市もそこから何もできていません。7, 8年前にテーマの市役所内部でのテーマ募集を始めましたが、それもうまくいっていない現状があるかと思います。
委員	アンケートを見ると初めての人が3分の1となっていますが、自分は多いと思います。また、コメントには、初めてですが面白かったですとあります。参加して気付きがあったのだと思います。 実行委員経験者の方から大変だという意見がありましたが、どうしたら良いのかと考えています。 まちづくり集会は、市政の情報を知ることができる機会として良いものだと思います。課題として、まちづくり集会がどう反映されたのかということを示さないと良くないです。言いつばなしではなく、次

	につなげていく必要があると思います。
委員	地域協議会に長く携わっていますが、子どもが減って高齢者ばかりになり、学校も統廃合により遠くなる等、移動手段がないこともあり、高齢者と子どもとの交流がなくなっています。昨年度は、共育の日に小学校で餅つきを行いました。今年度も実施の予定です。こうした交流は、子どもたちの学び・体験だけではなく、高齢者の生きがいにもなります。こうした取組には、女性の参加が多く男性の参加が少ないです。 田舎の生活を知ってもらって新城の街なかの方から移住してもらえればと思います。子育て世代が住むのに良い場所とは決して言えませんが。 まちづくり集会のような話ができる場で、それをきっかけに田舎の方に入ってきてもらえればと思います。
委員	テーマについては、若い子がどんどんテーマを出して、それを経験者や上の世代の人も含めて検討をして知識を増やしながら、楽しく、テーマもどんどん変わりながら創り上げていくような探し方もありだと思います。 周知が大変だという意見もありましたが、SNSやポップを面白く作ったり、活動している団体の方たちに、そういった方は行政とのつながりがある方が多いので、そういった方を巻き込んだりして取り組んでいくのが良いと思います。 ママさんたちはSNSをすごく見ますので、そういうことが得意な人が進めるようなことも考えられます。周知はやり方次第です。 グループワークは嫌いという意見がありましたが、私はグループワークが楽しかった記憶があります。また、人を知れることに面白さがあると思います。私は、こども園のときに参加しましたが、その後どうなったのかが気になり、その後、議場でその話が出ていましたので聞きましたが、進んではいなくて、自分の行動が足りなかったと思いました。子どもたちに新城で育ってほしくて、将来の新城に貢献する仕事に就いてくれるとうれしいなと思っていましたので、残念だなという想いとこれから動いていけば良いという想いがあります。自分は動ける人ですので、動いていきたいです。 子どもを土日まで園に預けることに抵抗があることも分かりますが、園では子どもたちが安全に遊ぶことができ、子どもたちの未来のための行動だと思って私は預けました。子どもたちとの時間はすごく大切ですが、子どもたちの未来を考えることも同じように大切です。

	子どもたちが参加できるイベントの案は面白いと思いました。子どもたちも参加できることは良い工夫だと思います。 若い世代については、参加するには特典がないと来ません。お金を掛けない特典は難しいですが。
会長	整理をします。 そもそもの認識として、まちづくり集会は廃止せずに続けていくべきという認識でよろしいですか。前向きな意見が多かったですので。
会長	続けていく方向の次の段階としては、どう改良していくのかということになります。 論点として挙げたのは、大きく4つあります。1つ目は開催頻度でそれに附随してテーマの話、2つ目は実行委員会の負担感、3つ目が参加者で、これについては参加者を確保するために負担感が出てしまうことは違うと思いますが、4つ目が開催の結果をどうつなげていくのかということです。細かなところは運営の話ですので制度の話とは分けて考える必要があります。
委員	以前にまちづくり集会で取り扱った旧新城東高校の跡地について、市は買わないということになったそうですが、そのような経過を成果として詳らかにしなければいけないと思います。
委員	その件は新聞に載っていましたね。
会長	ほかにいかがでしょうか。
委員	1つ確認したいのですが、運営や個別の開催の善し悪しを判断するのは市民自治会議の役割ではないと思うのですが、そういった意見がありましたので。実行委員会で考えて決めていく内容に対する意見は、運営に関する意見であって制度に関する意見ではないと思います。例えば、子育て世代を取り込んでいく方向性を市民自治会議が踏み込んで示して良いのかということです。絶妙に難しいところだと思いますが。
事務局	たしかに絶妙に難しいです。少なくとも個別の回に対する意見は運営に対するものになりますので制度からは離れます、全体についての意見であれば制度に関する意見になると思います。実効性の確保が市民自治会議の目的ですので、絶妙なところですよ。
会長	ありがとうございました。それでは本日の会議を終了します。

4 その他

次回の会議日程

9月16日（水）

閉会（19：55）